

研究計画書

ゼミ名	ASP	チーム名	Team Rio
タイトル	タクシーは人命を救えるのか		
テーマ群	a) 理論・情報 c) 公共経済		
メンバー	中田晴香 濱田悠平 春名雄太 伊東慶介		
研究計画内容	<p>[研究目的]</p> <p>「蚊に刺されてかゆい」「海水浴に行って日焼けした足がヒリヒリする」「病院でもらった薬がなくなった」「病院で長く待たされるのが面倒だった」——にわかには信じがたいことではあるが、消防庁によると、このような理由によって救急車の出動が要請されるという現状がある。他方で、救急車の出動要請から現場到着までの平均時間は長くなってきており、重症者の死亡率が上昇している。本研究では、これらの諸事実を社会問題として捉え、その解決策を提供する。</p> <p>[研究内容・方法]</p> <p>従来の救急搬送システムに「救急タクシー」を組み入れて活用することで実現される経済効果を、人命・雇用・財政の3つの側面から考える。</p> <p>研究方法としては、まず、救急車をタクシーによって代替することによって救急車の現場到着時間をどれだけ短縮できるかを明らかにし、その結果から、蘇生率がどの程度上昇するのかを、救急搬送された軽症者率のデータ、ドリンカーやカーラーの救命曲線等のデータやグラフに基づいて試算する。</p> <p>次に、「救急タクシー」による雇用創出効果、ならびに、「救急タクシー」による労働需要の増加とタクシー運転手の労働条件の改善について、統計データに基づくシミュレーションを行う。</p> <p>最後に、財政に対する効果として、救急車の一回あたりの出動費と「救急タクシー」による救急車の出動回数の減少によって消防費がどれだけ減少するのかを推計する。</p> <p>[期待される成果]</p> <p>「救急タクシー」の導入によって、被救急搬送車の蘇生率の上昇、新たな雇用の創出、国全体での消防費の削減が可能であるとともに、経済全体において、モラルハザードによる非効率の緩和が期待される。</p>		